

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

SDS 整理番号 : 130000000099

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 三井・ケマーズ フロロプロダクツ株式会社

住所 : 東京都港区虎ノ門 4-1-17 神谷町プライムプレイス 日本

電話番号 : 050-3823-0650

緊急連絡電話番号 : 安全・環境保安課 (054-334-4827) (休日・祭日・夜間 054-335-5507)

担当部署 :

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 推進剤

使用上の制限 : 工業用のみ。

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

可燃性ガス : 区分 1

高圧ガス : 液化ガス

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : H220 極めて可燃性の高いガス。
H280 高圧ガス : 熱すると爆発のおそれ。

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

注意書き

： 安全対策:
P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

応急措置:
P377 漏えい（洩）ガス火災の場合：漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。
P381 漏えいした場合、着火源を除去すること。

保管:
P410 + P403 日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

重要な徴候及び想定される非： 蒸気は空気より重く、呼吸のための酸素量が減ることにより窒息を起こす。
心機能に影響があるため、誤用または故意に吸入した場合には前兆となる症状を伴わず死亡することがある。
製品の急速な蒸発は、凍傷の原因となることがあります。
酸素に取って代る可能性があり、また急速に窒息させる可能性があります

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 化学物質

化学名又は一般名： 1, 1-ジフルオロエタン

CAS 番号： 75-37-6

成分

化学名	CAS 番号	含有量 (% w/w)	官報公示整理番号
1, 1-ジフルオロエタン	75-37-6	>= 99.9 - <= 100	2-86

4. 応急措置

一般的アドバイス： 事故の場合や、気分がすぐれないときは直ちに医者診察を受ける。
症状が長引く場合、または疑問がある場合は、医師の指示を受ける。

吸入した場合： 吸い込んだ場合、新鮮な空気のところへ移動する。
呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

呼吸が困難な場合には酸素吸入を行う。
直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : 凍った部分をぬるま湯で溶かすこと。受傷部はこすらないこと。
直ちに医師の手当てを受ける。

眼に入った場合 : 直ちに医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合 : 経口摂取は潜在的曝露経路として考慮されていない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 不整脈を引き起こす可能性がある。
誤用または吸入によって引き起こされる可能性のある、その他の症状は次の通りである
心臓過敏
麻酔作用
立ちくらみ
めまい
混乱
協調欠如
眠気
意識消失
ガスは呼吸に使用する酸素を減少させる。
液体または冷却したガスとの接触により、低温やけどまたは凍傷が起きる可能性がある。

応急措置をする者の保護 : 救急救命士に対する特別な安全上の注意はありません。

医師に対する特別な注意事項 : 心律動障害の可能性があるため、緊急の生命維持の状況において使用される可能性のあるエピネフリン等のカテコールアミン剤は特に注意して使用しなければならない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧
耐アルコール泡消火剤
二酸化炭素 (CO₂)
粉末消火剤

使ってはならない消火剤 : 知見なし。

特有の危険有害性 : 蒸気は空気と爆発性混合物を生成することがある。
燃烧生成物への曝露は健康に害を及ぼす場合がある。
蒸気圧が高いため温度が上昇すると容器が破裂する危険がある。

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

- 有害燃焼副産物 : フッ化水素
フッ化カルボニル
炭素酸化物
- 特有の消火方法 : 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。
爆発の危険性があるため、離れた距離から消火すること。
未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。
漏えい（洩）ガス火災の場合：漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。
安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。
区域から退避させること。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。
保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 安全な場所に避難する。
訓練を受けたもののみが、再度エリアに立ち入ることができる。
付近の発火源となるものを取り除く。
漏れている液体との皮膚接触を避ける（凍傷の危険性）。
周囲を換気する。
安全な取り扱いのアドバイス（項目 7 を参照）や、個人保護具の推奨事項に準拠（項目 8 を参照）。
- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
安全を確認してから、もれやこぼれを止める。
汚染された洗浄水を保管し、処分する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 周囲を換気する。
防爆用工具を使用しなければならない。
ガス／蒸気／ミストを水スプレージェットで抑える（除去する）。
本製品を放出、廃棄する際には、各地方自治体および国の規則に従って処理すること。その放出に使用された物質についても同様である。どの規則が適用されるかを確認する必要がある。
本 SDS の項目 13 および 15 において、地方自治体および国の法規制の記載あり。

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : シリンダー圧力の敵格の機器を使用すること。配管には逆流防止装置を使用すること。各使用後および空になった際にバルブを閉める。
- 局所排気, 全体換気 : 十分な換気ができない場合は、局所排気装置を使用してください。
局所ばく露の可能性の評価により低減があった場合、防爆排気装置を備えた場所でのみ使用してください。
- 安全取扱注意事項 : ガスの吸入を避けること。
職場曝露調査の結果に基づき、産業性の衛生および安全性の実行規定に従い取り扱うこと
容器を密閉しておくこと。
耐熱手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。
コンテナがバルブの使用場所に接続された差込口に固定されていない場合、バルブの保護蓋およびバルブのネジ付きプラグ (valve outlet threaded plugs) はそのまま適所に残さなければならない。
ガスタンクへの逆流を防ぐこと。
ポンペへの危険な逆流を防ぐため、放出ラインには逆止弁またはトラップをつける。
ポンペを低圧 (3000psig 未満) のパイプもしくはシステムに連結する場合には、減圧調節装置を使用する。
各使用後および空になった際にバルブを閉める。接続を変えたり、無理に接続したりしないこと。
ガスタンクに水が浸入するのを防ぐこと
ポンペは、ふたを持って持ち上げてはいけない。
ポンペを引きずったり、滑り落としたり、転がさない。
シリンダーの移動には、適切な手押し車を使用すること。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
静電気放電に対して予防処置手段をとること。
漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。
- 接触回避 : 酸化剤
- 衛生対策 : 通常の使用中に化学物質へのばく露の可能性がある場合は、作業場所の近くにアイフラッシングシステムおよび安全シャワーを設置してください。
使用中は飲食及び喫煙を禁止する。
汚染された衣服は再使用する前に洗濯すること。

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

保管

- 安全な保管条件 : シリンダーは落下または転倒を防ぐため、垂直に格納ししっかりと固定しなければならない。
中身がいっぱい容器は、空容器と分ける。
可燃性物質の近くに保管しない。
塩や他の腐食性物質が存在する場所を避ける。
適切なラベルのついた容器に入れておく。
栓をしっかりと閉める。
涼しい、換気の良い場所で保管する。
直射日光を避ける。
各国の規定に従って保管する。
熱や発火源から遠ざける。
- 混触禁止物質 : 次の製品種類といっしょに保管しない:
強酸化剤
- 推奨された保管温度 : < 40 °C
- 保管期間 : > 10 年
- 保管安定性に関する詳しい情報 : 正しく保管された場合、製品の保管期限は無期限です。
- 安全な容器包装材料 : 適さない材質: 知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置**作業環境における成分別暴露限界/許容濃度**

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

設備対策

- : 作業場における曝露濃度を最低限に抑えること。
十分な換気ができない場合は、局所排気装置を使用してください。
局所ばく露の可能性の評価により低減があった場合、防爆排気装置を備えた場所でのみ使用してください。

保護具

- 呼吸用保護具 : 未制御放出の可能性がある、露出レベルが不明な場合、正圧空気供給呼吸装置を使用する。

手の保護具

- 材質 : 耐熱手袋

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

備考 : 危険物質の濃度や量により、作業場に合った化学物質防護手袋を選ぶこと。特殊作業に使用する上記の手袋の耐化学物質性を手袋の製造元に問い合わせることを推奨する。休憩前や終業時には手を洗う。この製品が手袋を透過する時間は分かっていない。手袋を頻繁に取り替える。

眼の保護具 : 次の個人保護具を着用する:
耐化学薬品性の保護眼鏡を必ず着用する。
フェイスシールド

皮膚及び身体の保護具 : 次の個人保護具を着用する:
爆発性雰囲気または引火の危険性があることが評価で示された場合は、難燃性帯電防止保護服を使用してください。

保護対策 : 耐熱手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液化ガス

色 : 透明, 無色

臭い : かすか

臭いのしきい(閾)値 : データなし

融点／凝固点 : -117°C

沸点又は初留点及び沸騰範囲 : -24.7°C
(1,013 hPa)

可燃性(固体、気体) : 引火性

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

爆発範囲の上限 / 可燃上限 : 可燃上限値
値 16.9 % (V)
方法: ASTM E681

爆発範囲の下限 / 可燃下限 : 可燃下限値
値 3.9 % (V)
方法: ASTM E681

引火点 : 非該当

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

自己発火性	:	この物質または混合物は自然発火性としては分類されない。
分解温度	:	データなし
pH	:	データなし
蒸発速度	:	非該当
自然発火温度	:	440 ° C
粘度		
動粘度 (動粘性率)	:	非該当
溶解度		
水溶性	:	0.28 g/l (25 ° C)
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	:	log Pow: 1.13 (25 ° C)
蒸気圧	:	5,146.24 hPa (25 ° C)
密度及び／又は相対密度		
比重	:	2.4
密度	:	0.911 g/cm ³ (20 ° C) (液体として)
		0.83 g/cm ³ (50 ° C) (液体として)
		0.0027 g/cm ³ (25 ° C) (液体として)
相対ガス密度	:	2.4 (空気=1.0)
爆発特性	:	爆発性なし
酸化特性	:	本製品は酸化性物質としては分類されない。
粒子特性		
粒子サイズ	:	非該当

10. 安定性及び反応性

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

反応性	: 反応性危険としては分類されない。
化学的安定性	: 指示通りに使用される限り安定。注意事項に従い、非適合性材料や条件を回避すること。
危険有害反応可能性	: 蒸気は空気と爆発性混合物を生成することがある。 強い酸化剤と反応することがある。 極めて可燃性の高いガス。
避けるべき条件	: 熱、炎、火花。
混触危険物質	: 酸化剤
危険有害な分解生成物	: 危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

可能性のある暴露経路の情報 : 吸入
皮膚接触
眼に入った場合

急性毒性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

急性毒性（経口） : アセスメント: この物質または混合物は急性の経口毒性は無い。

急性毒性（吸入） : LC50 (ラット): > 437500 ppm
曝露時間: 4 h
試験環境: 気体

無毒性濃度 (犬): 50000 ppm
試験環境: 気体
方法: 心臓感作試験

最小毒性濃度 (犬): 150000 ppm
試験環境: 気体
方法: 心臓感作試験

心臓感作閾値 (犬): 405,000 mg/m³
試験環境: 気体
方法: 心臓感作試験

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

急性毒性（経皮） : アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

皮膚腐食性／刺激性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

結果 : 皮膚刺激なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

結果 : 眼への刺激なし

呼吸器感作性又は皮膚感作性**皮膚感作性**

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

呼吸器感作性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

暴露の主経路 : 皮膚接触

結果 : 陰性

暴露の主経路 : 吸入

種 : ラット

結果 : 陰性

生殖細胞変異原性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

in vitro での遺伝毒性 : 試験タイプ: 微生物を用いる復帰突然変異試験 (AMES)
方法: OECD 試験ガイドライン 471
結果: 陰性

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

試験タイプ: in vitro 染色体異常試験
方法: OECD 試験ガイドライン 473
結果: 陽性

in vivo での遺伝毒性 : 試験タイプ: 哺乳動物赤血球小核試験 (in vivo 細胞毒性試験)
種: ラット
投与経路: 吸入(ガス)
方法: OECD 試験ガイドライン 474
結果: 陰性

生殖細胞変異原性 - アセスメント : 根拠が薄く生殖細胞突然変異源として分類することはできない。

発がん性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

種 : ラット
投与経路 : 吸入(ガス)
曝露時間 : 104 週
方法 : OECD 試験ガイドライン 453
結果 : 陰性

発がん性 - アセスメント : 証拠の重要性からすると、発がん性物質として分類されない

生殖毒性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

妊娠に対する影響 : 試験タイプ: げっ歯類優性致死試験 (胚細胞) (in vivo)
種: マウス
投与経路: 吸入(ガス)
方法: OECD 試験ガイドライン 478
結果: 陰性
備考: 類似する物質から得られたデータに基づく

試験タイプ: 慢性毒性・発がん性複合試験
種: ラット
投与経路: 吸入(ガス)
方法: OECD 試験ガイドライン 453
結果: 陰性

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

胎児の発育への影響 : 試験タイプ: 胎児期成長毒性試験(催奇形性)
種: ラット
投与経路: 吸入(蒸気)
方法: OECD 試験ガイドライン 414
結果: 陰性

試験タイプ: 胎児期成長毒性試験(催奇形性)
種: ウサギ
投与経路: 吸入(ガス)
方法: OECD 試験ガイドライン 414
結果: 陰性
備考: 類似する物質から得られたデータに基づく

生殖毒性 - アセスメント : 証拠の重要性からすると、生殖毒性性物質として分類されない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

暴露の主経路 : 吸入(ガス)
アセスメント : 濃度範囲 20000 ppmV/4h 以下では動物における重大な健康への悪影響が発生しなかった。

暴露の主経路 : 皮膚接触
アセスメント : 濃度範囲 2000 mg/kg bw 以下では動物における重大な健康への悪影響が発生しなかった。

暴露の主経路 : 飲み込んだ場合
アセスメント : 濃度範囲 2000 mg/kg bw 以下では動物における重大な健康への悪影響が発生しなかった。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

暴露の主経路 : 吸入(ガス)
アセスメント : 濃度範囲 250 ppmV/6h/d 以下では動物における重大な健康への悪影響は無かった。

暴露の主経路 : 皮膚接触
アセスメント : 濃度範囲 200 mg/kg bw 以下では動物における重大な健康への

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

悪影響は無かった。

暴露の主経路
アセスメント

: 飲み込んだ場合
: 濃度範囲 100 mg/kg bw 以下では動物における重大な健康への悪影響は無かった。

反復投与毒性**成分:****1, 1-ジフルオロエタン:**

種	: ラット, オスおよびメス
NOAEL	: 25000 ppm
LOAEL	: >25000 ppm
投与経路	: 吸入(ガス)
曝露時間	: 104 週
方法	: OECD 試験ガイドライン 453

誤えん有害性

利用可能な情報に基づく限り分類できない。

成分:**1, 1-ジフルオロエタン:**

吸引性呼吸器有害性には分類されていない

12. 環境影響情報**生態毒性****成分:****1, 1-ジフルオロエタン:**

魚毒性	: LC50 (魚類): 295.783 mg/l 曝露時間: 96 h 方法: ECOSAR (生態学的構造活性相関)
ミジンコ等の水生無脊椎動物 に対する毒性	: EC50 (Daphnia (ミジンコ属)): 146.695 mg/l 曝露時間: 48 h 方法: ECOSAR (生態学的構造活性相関)
藻類/水生生物に対する毒性	: EC50 (藻類): 47.755 mg/l 方法: ECOSAR (生態学的構造活性相関)

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 短期（急性） : 本製品には既知の生体毒性は無い。

水生環境有害性 長期（慢性） : 本製品には既知の生体毒性は無い。

残留性・分解性

成分:

1, 1-ジフルオロエタン:

生分解性 : 結果: 易分解性ではない。

生体蓄積性

成分:

1, 1-ジフルオロエタン:

生体蓄積性 : 備考: 生物蓄積の可能性は低い。

n-オクタノール／水分配係数 : log Pow: 1.13 (25 ° C)
(log 値)

土壌中の移動性

成分:

1, 1-ジフルオロエタン:

環境中の分布 : Koc: 4.47

オゾン層への有害性

成分:

1, 1-ジフルオロエタン:

オゾン層破壊係数 : 国際規制: 日本. 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律施行令 (更新日: 2018-08-10)
番号: 17
グループ: 議定書附属書 F のグループ I

他の有害影響

データなし

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

- 残余廃棄物 : 不必要に空気中にガスを放出せず、以下の規則に従って廃棄してください: 高圧ガス保安法およびフロン排出抑制法（フロン系物質を含む場合）。廃棄方法を順守するために、当該地の法律に規定されている産業廃棄物を取り除きます。
- 汚染容器及び包装 : 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。
空の圧力容器はサプライヤに返還する。
特に指定が無い場合、未使用品として廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送 (UNRTDG)

- 国連番号 (UN number) : UN 1030
国連輸送名 (Proper shipping name) : 1, 1-DIFLUOROETHANE
国連分類 (Class) : 2.1
容器等級 (Packing group) : 規制による割り当て無し
ラベル (Labels) : 2.1
環境有害性 : 非該当

航空輸送 (IATA-DGR)

- UN/ID 番号 (UN/ID number) : UN 1030
国連輸送名 (Proper shipping name) : 1, 1-Difluoroethane
国連分類 (Class) : 2.1
容器等級 (Packing group) : 規制による割り当て無し
ラベル (Labels) : Flammable Gas
梱包指示 (貨物機) (Packing instruction (cargo aircraft)) : 200
梱包指示 (旅客機) (Packing instruction (passenger aircraft)) : 輸送は許可されていない

海上輸送 (IMDG-Code)

- 国連番号 (UN number) : UN 1030
国連輸送名 (Proper shipping name) : 1, 1-DIFLUOROETHANE
国連分類 (Class) : 2.1
容器等級 (Packing group) : 規制による割り当て無し

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

ラベル (Labels) : 2.1
EmS コード (EmS Code) : F-D, S-U
海洋汚染物質 (該当・非該当) : 非該当
(Marine pollutant)

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)
供給された状態の製品には非該当。

国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのため、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

緊急時応急措置指針番号 : 115

15. 適用法令**関連法規****消防法**

危険物、指定可燃物に該当しない。

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法**製造等が禁止される有害物**

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質 (既存化学物質)

非該当

変異原性の認められた化学物質 (新規届出化学物質)

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量 (%)	備考
-----	---------	----

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

1, 1-ジフルオロエタン	>=99.9 - <=100	2026 年 4 月 1 日以降
---------------	----------------	------------------

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条（施行令第 18 条）

化学名	備考
1, 1-ジフルオロエタン	2026 年 4 月 1 日以降

皮膚等障害化学物質 不浸透性の保護具等の使用義務物質（労働安全衛生規則第 594 条の 2）

非該当

がん原性物質（労働安全衛生規則第 577 条の 2）

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）

可燃性のガス

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

高圧ガス保安法

液化ガス, 可燃性ガス

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1: 高圧ガス

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: 高圧ガス

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送 : 有害液体物質には該当しない

個品輸送 : 海洋汚染物質には該当しない

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

麻薬及び向精神薬取締法

麻薬向精神薬原料（輸出・輸入許可）

非該当

特定麻薬向精神薬原料（輸出・輸入許可）

非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

非該当

国際規制

モントリオール議定書 : 1, 1-ジフルオロエタン

16. その他の情報

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます

その他の情報 : Chemours™ および Chemours Logo は The Chemours Company の商標です。
ご使用前に、ケマーズ社の安全情報をお読み下さい。
更に詳しい情報が必要な場合は、各地のケマーズ支社または指定代理店にお問い合わせください。

詳細情報

引用文献 : 自社技術データ、原材料 SDS に基づくデータ、OECD eChem ポータルおよび欧州化学物質局 <http://echa.europa.eu/> の検索結果

日付フォーマット : 年/月/日

その他の略語の全文

AIIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50% 阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50% 致死濃度; LD50 - 50% 致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に

Fluorocarbon 152a Aerosol Propellant

版番号	改訂日:	整理番号:	前回改訂日: 2024/10/28
10.1	2025/03/05	1324500-00039	初回作成日: 2017/02/27

品名が明示されているものを除く; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - (定量的)構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TECL - タイに既存の化学物質のインベントリ; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

この安全データシート(以下「SDS」という)で提供する情報(以下「本情報」という)は、本書作成時点において、弊社の最善の知識、情報、及び信念のもとで正確であると判断したものです。本情報は、製品の安全な取扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄及び漏洩に関するガイダンスとしてのみ作成されており、いかなる保証又は品質規格をなすものではありません。本情報は、SDSの頭書に示されている特定された製品に関するものであり、当該本製品が他の製品と組み合わせ、又はプロセス中で使用される場合、本文中に言及がない限り、有効にはならない可能性があります。本製品の使用者各位においては、本情報及び推奨事項を適用する場合に、使用者各位の最終製品における本製品の適切な評価を含めて、使用者各位の意図する方法での特定の状況における本製品の取扱い、使用、処理、及び保管について、確認願います。

JP / JA